

安全就業ニュース

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会

新しい全国統一スローガンが決定しました！

「事故防止、急ぐな、あせるな、気を抜くな」

(平成29年度から平成31年度までの全国統一スローガンとして、安全意識の啓発に活用し、事故撲滅を目指し全員で取り組みましょう。)

安全・適正就業強化月間

◎ 国が実施する「全国安全週間」にあわせ、7月は「安全・適正就業強化月間」の月です。

職員・会員の皆さん全員で組織をあげて、事故の撲滅を図り「安心・安全」のシルバー事業の発展を図りましょう。

◎ 「安全・適正就業強化月間」の期間
平成29年7月1日から7月31日

◎ 主な取り組み

[シルバー人材センターで取り組む事項]

- 1 安全・適正就業委員会の開催、「安全・適正就業対策基本計画」の策定及び事故の要因分析と具体的な防止策の徹底
- 2 重篤事故につながる就業の見直し
 - ① 危険・有害な作業は受託しないこと
 - ② 作業別安全・適正就業基準に掲げる安全保護具の完全着用の徹底を図ること
なお、安全帽・安全帯等の安全保護具を未着装のもとで就業した場合、申し合わせによって事故の有無に拘わらず就業者には就業停止等の措置を講じるなど安全就業の徹底を図ること
 - ③ 健康チェックや健康講話等の実施、健康診断の積極的な奨励などの健康増進策を図ること
- 3 ヒヤリ・ハット体験事例を収集し、要因を分析した対策を講じた事故の防止の徹底

- 4 損害賠償責任保険事故の防止
- 5 就業途上における交通事故の防止
 - ① 交通安全に関する講習会の実施及び交通安全対策の徹底
 - ② 事故多発エリアのロードマップ等の作成
 - ③ 徒歩、自転車及びバイクでの事故の防止の徹底
- 6 安全就業対策の総点検の実施
 - ① 就業前、就業後の安全意識等の徹底
 - ② 機械器具の点検と整備の徹底
 - ③ 安全保護具の点検と整備の徹底
 - ④ 巡回パトロールの重点実施
 - ⑤ 就業現場の総点検
 - ⑥ 交通安全対策の徹底
- 7 安全・適正就業の研修及び点検
 - ① 安全就業に係る事例発表を含む研修会、講習会等の実施
 - ② 適正就業に係る事例発表を含む研修会、講習会等の実施
 - ③ 適正就業ガイドラインに沿った事業運営の実施
 - ・ 適正就業ガイドラインを活用した研修・周知
 - ・ 「請負業務点検票」(平成27年1月16日付け事務連絡)による受注内容・就業実態の点検等適正就業に向けた改善
 - ・ 契約書等の適正な締結(例 請負契約に沿った適正な用語の使用、警備業務等の業務と解される用語の禁止、総額表示の使用、仕事内容の具体的記載等)
 - ・ 雇用関係があると疑われる請負契約又は委任契約から派遣契約への切り替え若しくは職業紹介の実施による雇用
- 8 会員からの安全標語の募集、シルバー人材センター・施設・就業現場等への安全標語、垂れ幕、ノボリ等の掲示などによる会員すべての安全意識の徹底
- 9 会報等への安全意識啓発のための特集記事の掲載
- 10 会員に対して安全意識啓発及び情報の共有化を図るための資料等の配布など
- 11 月間中における「安全意識高揚の日」の設定及び安全表彰の実施

[シルバー人材センター連合本部で取り組む事項]

- 1 シルバー人材センターに対する安全就業対策等の指導・助言
- 2 安全大会の実施及び安全表彰の実施
- 3 安全・適正就業に関する研修会、講習会等の実施
- 4 巡回パトロールの実施
- 5 シルバー人材センターの月間行事の実施についての指導・援助

◎ 強化月間における実施と併せて年間計画を策定し、効果的に取り組みましょう

安全就業スローガン、平成29年度安全就業優秀・優良シルバー人材センター等表彰団体が決定しました

安全就業スローガン、平成29年度安全就業優秀・優良シルバー人材センター等表彰団体は、5月18日開催の安全就業優秀・優良シルバー人材センター等選定委員会において下表のとおり決定しましたのでお知らせします。受賞されました皆様、誠にありがとうございます。

なお、安全就業スローガン最優秀作品、優秀賞・優良賞、優秀連合賞は、中野サンプラザにおいて6月22日開催の29年度全シ協定時総会で表彰いたしました。

(スローガン)

最優秀作品	事故防止、急ぐな、あせるな、気を抜くな	八京 義一
北海道 公益社団法人 恵庭市シルバー人材センター		
佳作	危険だと 気付く気持ちが 事故防ぐ	大島 建雄
東京都 公益社団法人 小金井市シルバー人材センター		
佳作	危ないぞ 言える勇気と 聞く心	高地 花子
兵庫県 公益社団法人 宝塚市シルバー人材センター		

(スローガン 計3名)

(優秀賞)

ブロック名	都道府県名	団体名
東北	宮城県	公益社団法人柴田町シルバー人材センター
関東	東京都	公益社団法人府中市シルバー人材センター
東海	愛知県	公益社団法人刈谷市シルバー人材センター
近畿	滋賀県	公益社団法人栗東市シルバー人材センター

(優秀賞 計4団体)

(優良賞)

東北	宮城県	公益社団法人石巻市シルバー人材センター
東北	宮城県	公益社団法人亘理町シルバー人材センター
関東	茨城県	公益社団法人結城市シルバー人材センター
関東	千葉県	一般社団法人大網白里市シルバー人材センター
北信越	長野県	公益社団法人茅野広域シルバー人材センター
東海	岐阜県	公益社団法人各務原市シルバー人材センター
東海	愛知県	公益社団法人長久手市シルバー人材センター
東海	三重県	公益社団法人志摩市シルバー人材センター
近畿	大阪府	公益社団法人泉佐野市シルバー人材センター
近畿	奈良県	公益社団法人香芝市シルバー人材センター
中国	広島県	公益社団法人安芸高田市シルバー人材センター
四国	徳島県	石井町シルバー人材センター
四国	徳島県	牟岐町シルバー人材センター
四国	愛媛県	公益社団法人今治市シルバー人材センター
九州	福岡県	公益社団法人飯塚市シルバー人材センター
九州	福岡県	公益社団法人粕屋町シルバー人材センター
九州	熊本県	公益社団法人水俣・津奈木シルバー人材センター

(優良賞 計17団体)

(優秀連合賞)

ブロック名	都道府県名	連 合 名
北信越	石 川 県	公益社団法人石川県シルバー人材センター連合会

(優秀連合賞 計1団体)

計 22団体

暑さに強いカラダで熱中症を防ぎましょう！

今の時期は、梅雨の季節ですが夏日となる日もあり、会員さんの就業時などの暑さ対策を万全にする必要があります。今月は、熱中症について特集しました。

熱中症とは

熱中症は、体内の水分や塩分のバランスが崩れることで生じ、重症化すると死に至るたいへん怖い疾病です。

特に熱中症による死亡者は、暑さに慣れていない作業の初日、2日目に多く発生しています。しかし、暑さに体を慣らすことによって、熱中症を発症しにくくすることができ、これを「暑熱順化」と言います。

最近では、クーラーの効いた部屋にいることが多く、暑さに体が慣れる機会が減っています。暑くなる前から意識して汗をかくようにして、暑い季節を安全・健康に乗り切りましょう。

暑さに体が慣れる(暑熱順化する)と・・・

体の熱を上手に発散できるようになる(低い温度でも汗をかきやすくなり、皮膚表面近くの血管の血流が増える)に汗で出る塩分量が減ると

⇒ **熱中症になりにくい体になる！**

暑さに体を慣らすには、意識して汗をかく練習をしましょう！

1 運動で汗をかく！

- ① ウォーキング、ランニング、サイクリングなどの有酸素運動でしっかりと汗をかきま
す。まずは一週間続けてみましょう。
- ② 順化の効果は4日以上の中絶で失われはじめます。休暇中も積極的に汗をかきま
しょう。

2 入浴やサウナで汗をかく！

- ① お風呂は、40℃のお湯で10～20分入ります。
- ② 炭酸入浴剤を利用すると、血行を促進し、発汗をより促すことができます。

作業中の熱中症予防は、こまめな水分補給と塩分の摂取・適度な休憩で！

これから夏に向けて本格的な暑さを迎えます。その前に、環境面や体力面からの熱中症予防対策を始めることが肝要です。正しい知識、適切な予防策、応急措置で、熱中症の予防対策を徹底して行い、熱中症を予防しましょう！

(中央労働災害防止協会 「安全衛生かべしんぶん」より引用)



安全リレー

～群馬県における安全就業の取り組み～

1. 群馬県シルバー人材センター連合の概要（平成28年度実績）

□ センター数	31センター
□ 会員数	9,010人
□ 粗入会率	1.3%
□ 受注件数	58,953件（派遣 261件含む）
□ 契約金額	4,270,267千円（派遣 334,371千円含む）
□ 就業率	80.0%
□ 就業実人員	7,878人

2. 過去5年間の事故発生状況

年度		H23	H24	H25	H26	H27	H28
傷害	傷害事故発生 件数	77	71	67	63	77	76
	就業延べ人員	885,742	924,946	939,456	963,033	967,759	981,598
	傷害事故者率	0.0000869	0.0000768	0.0000713	0.0000654	0.0000796	0.0000774
	重篤事故発生 件数	1	0	1	1	2	0
	重篤内容	交通事故	—	交通他責	蜂刺され	転落 墜落	—
損害	損害事故発生 件数	62	79	68	56	60	65
	石飛事故内数	29	39	30	21	21	21

傷害事故はH23年度以降減少傾向にありましたが、H27年度に大巾にリバウンドする結果となりました。原因を探ると冬期に大雪が降り例年事故の少ない1月に8件もスリップ転倒事故が発生したこと、派遣就業が本格的に始まったことにより、今までになかった労災事故が3件発生したことが主因です。やはり環境や就業形態が大きく変化したときには、それに応じた予期せぬ現象が起きる因果律の現われです。また、しばらくなかった高所作業による重篤事故が2件も発生しました。H28年度は重篤事故の

発生は有りませんが、過去事故事例を教訓に原因追及を徹底するとともに重要課題に据え、H29年度も継続し再発防止、対策強化に取り組んでいるところです。

損害事故については減少傾向ではあるものの、あいかわらず草刈中の石飛事故が全体の約4割を占めている状況です。

3. 群馬県連合会の取り組み

群馬県連合会では「連合会安全・適正就業委員会」を設置し、具体的な年間事業計画を協議作成し安全・適正就業事業を推進しています。

以下連合会の主な取り組みを記します。

(1) 安全・適正就業委員会の開催（年2回＋臨時）

定期開催は年2回で年間計画の審議や実施状況の確認等行っていますが、H27年度は期中に高所作業による死亡重篤事故が発生したため臨時で委員会を召集、再発防止の強化対策検討を行いました。

H29年度は社会問題としてクローズアップしてきた高齢ドライバーによる重大交通事故について議題に取り上げ方向性を検討しているところです。

(2) 安全・適正就業担当者研修会

毎年全国強化月間の7月と1月の年2回、各センターの安全推進担当職員と安全委員及び連合安全委員を対象に、外部講師を招いた課題に応じた実践的な研修を行っており、毎回70～80名が参加しています。

屋外での実演講習を交えた「剪定作業に於ける安全就業上の注意点について」や「安全な草刈りツールについて」、また間近では「うっかりミスはなぜ起きる」と題して県立健康福祉大学の五十嵐准教授を講師に迎え、うっかりミスのメカニズムや防止策について科学的見地から講演して頂き、会員の事故に対する理解と予防意識を高めてもらいました。



安全な剪定作業の実演
講習風景

(3) 安全・適正就業巡回訪問

7月の安全研修会終了後、7月後半から～11月の繁忙期に県内31センターを毎年半分づつ訪問し、現場に密着した巡回指導を実施しています。巡回に際しては、各センターの事務局長と安全委員長及び安全推進担当職員に対応してもらい、就業現場

の同行確認(2～3カ所)を行っています。また、なるべく現場の会員に集合してもらい、身近な事故例を交えた事故防止のポイントを説明し注意喚起を促しています。

(4) 安全・適正就業作業ガイドラインの実施再徹底

重篤事故低減の為H23年度より群馬県独自に設定し推進してきた安全就業に関する作業ガイドラインですが、その後発生件数も減少し高所作業による重篤事故もしばらく途絶えていましたが、H27年度に2件の高所作業事故が突発しました。原因を詳しく調べると、発生センターではガイドラインの会員への周知と日頃の指導が行われていなかったことが判明しました。ガイドラインに基づき指導がなされていれば防げた事故であり、事態を重く受け止め安全委員会で緊急協議しH27年末に実施の再徹底を通達しました。これに基づき未実施及び取組みの曖昧なセンターに対しては、巡回訪問時に取組み状況を確認した上で運用ルールの作成と安全就業基準等への落とし込みを指導し、組織的に継続して取組めるよう実施徹底を推進しています。

(5) 蜂刺され重篤事故の再発防止

H26年度に、山手の空き別荘の草刈り作業中にスズメ蜂に襲われ死亡する痛ましい事故がありました。原因は蜂アレルギーショックによるもので、会員は強い蜂アレルギー抗体の保有者であったことが後に分かりました。「蜂刺され予防」の教本配布や「蜂に注意！」DVDによる対処法の啓発とともに再発防止対策として下記に取り組んでいます。

① 作業環境に応じ防蜂ネットの着用促進

② 蜂アレルギー検診の受診奨励推進

特に②については、毒性の強いスズメ蜂と脚長蜂の2種について血液中の抗体を調べるもので、潜伏する可能性の高い環境での就業会員中心にこれまで約350名が受診しました。その結果は擬陽性を含めると約50%、擬陽性を除くと約25%が基準値を超える抗体保有者で、特に注意を要する強陽性者も5名ほど見つかかり、想像以上に高い蜂アレルギーの潜在的な危険性に驚いています。

(6) 刈払機石飛事故に対する積極的防止対策

これまで飛散防止策としてネットの活用等行ってきましたが、依然として損害事故の約4割を占めています。この対策として石飛の無いハサミ刈り式カルマー刈払機の積極的導入と使い分け活用を推進しています。メーカーの(株)アイデック社に協力を仰ぎ実演講習会を行うとともに、アタッチメントを提供して頂き昨年より巡回訪問時に指導員が持参し実機デモと直接試用することによりその特徴メリットを理解してもらっています。既に本格的に導入使い分けしているセンターや試験導入を始めたセンターも徐々に増えてきており、今後の成果を期待しているところです。



石飛の無い刈払機の実演講習風景

(7) 安全就業優良センター表彰

前回(4年前)の安全リレー紙面で課題であった連合内表彰制度に対し、表彰基準を作成しH26年度より実施が始まっています。事故の数だけではなく創意工夫を図り積極的に事故の防止に汗を流し努力しているセンターには努力賞を設けています。

(8) 安全啓発グッズの作成・配布

毎年安全就業に関わる冊子やのぼり旗等の安全グッズやポスター等を作成・配布し、会員の安全意識の高揚・啓発を図っています。



図はH27年に発生した高所作業の重篤事故対策の一環として昨春作成した「**しないさせない 転落・墜落**」のポスターです。 剪定作業における事故防止のポイントを盛り込み各センターの事務所に掲示したり、各所の安全講習や技能講習時に縮小版を配り啓発しています。

以上、群馬県連合会が取り組んでいる安全・適正就業推進事業について紹介しましたが、これらを推進することにより重篤事故を減らし事故発生比率を下げる事が今後の大きな課題です。

群馬県長寿社会づくり財団様からの報告でした。詳細にわたるご報告、誠にありがとうございました。
7月号の安全リレーは、福島県シルバー人材センター連合会様からの報告を予定しています。

平成 29 年度 5 月 事故速報

重篤事故

5月は、7件の重篤事故報告がありました。

累計で比較してみると、昨年度の3件に比して、本年度は12件と4倍の大幅な増加となっています。

就業中・就業途上別にみると、就業中では、昨年度の2件に比して8件と6件の増加となっており、就業途上は昨年度の1件に比して4件と3件の増加となっています。

“重篤事故撲滅に向けて、会員・役職員一丸となって、安全対策に取り組んで参りましょう！”

5月報告分までの累計

平成 29 年度 5 月 累 計	就業中・ 就業途上	件数	内 訳				平成 28 年度 同月 累計					
			事故の程度		性別		計	事故の程度		性別		
			死亡	入院	男性	女性		死亡	入院	男性	女性	
就業中	8 (4)	4 (1)	4 (3)	8 (4)	0 (0)	就業中	2	1	1	1	1	
就業途上	4 (3)	2 (1)	2 (2)	2 (2)	2 (1)	就業途上	1	0	1	1	0	
計	12 (7)	6 (2)	6 (5)	10 (6)	2 (1)	計	3	1	2	2	1	

↳ 対前年度比 400.0%

※ () 内は5月報告分

5月報告分内容

No.	性別等	仕事内容等	事故の状況	安全帽	安全帯	交通手段
6	女 83 歳	就業途上 (入院)	自転車で就業先に向かう途中、信号に関係なく車が左折できる道路を走ってきた乗用車にはねられた。	—	—	自転車
7	男 75 歳	就業中 (死亡)	シュロの木を伐採したが、木は根元から伐採したので、敷地の擁壁(高さ1.5m)下の敷地外に3mほど飛び出して倒れた。その際、倒木が擁壁の下で片付けをしていた当該会員に激突した。 その後、病院に搬送されたが死亡した。	×	—	—
8	男 61 歳	就業中 (入院)	剪定作業を終えて自宅に戻ったが、帰宅後、具合が悪くなった。	—	—	—
9	男 66 歳	就業途上 (入院)	スクーターで就業先に向かう途中、軽自動車に撥ねられ左足膝から下の骨を粉碎骨折した。	—	—	バイク
10	男 68 歳	就業中 (入院)	12尺の三脚に乗り高台にある垣根の剪定作業中、足を踏み外し頭部より地面(コンクリート斜面)へ落下した。	○	×	—
11	男 73 歳	就業途上 (死亡)	自宅から就業場所へ自転車で向かった。就業場所の道路向かいの公園道具小屋に自転車を止め、作業場所への交差点の横断歩道(青)を渡っていたところ、東から北へ右折してきたトラックに撥ねられた。 その後、病院に搬送されたが死亡した。	—	—	徒歩
12	男 88 歳	就業中 (入院)	草刈り作業開始時に、現場へ行くためパイプ製2段のガードレールを越えて道路わきから約1m下のやや傾斜した場所へ降りた際にバランスを崩し転倒した。転んだはずみで降りた場所からさらに脇の法面約3m下の側溝まで転落したと思われる。	○	—	—

1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺障害の事故

5月は、就業中の事故14件、就業途上の事故9件と、合計23件であり、昨年度同月の24件に比して1件の減少となっております。男女別では、男性は1件の増加となっており、女性は2件の減少となっております。

合計の累計を見ると、昨年度の同数の42件となっております。就業中・就業途上別では、就業中は2件の増加、就業途上は2件の減少となっております。男女別では、男性は1件の増加となっており、女性が1件減少しています。

平成29年度5月分

	仕事の内容	事故数(件)		男性(件)		女性(件)		平均年齢(歳)	
		5月	累計	5月	累計	5月	累計	5月	累計
就業中	植木・樹木の剪定等	7(7)	14(12)	6(7)	13(12)	1(0)	1(0)	73	73
	除草作業	2(1)	2(3)	1(1)	1(3)	1(0)	1(0)	79	79
	屋内・屋外清掃作業	2(1)	6(4)	1(0)	2(2)	1(1)	4(2)	79	77
	その他	3(4)	4(5)	3(3)	3(4)	0(1)	1(1)	74	74
	計	14(13)	26(24)	11(11)	19(21)	3(2)	7(3)	75	75
就業途上	徒歩	2(2)	4(4)	2(0)	3(0)	0(2)	1(4)	74	77
	自転車	4(6)	7(9)	3(3)	4(3)	1(3)	3(6)	78	77
	バイク	3(2)	5(4)	1(2)	2(3)	2(0)	3(1)	76	75
	自動車	0(1)	0(1)	0(0)	0(0)	0(1)	0(1)	—	—
	計	9(11)	16(18)	6(5)	9(6)	3(6)	7(12)	76	77
合計		23(24)	42(42)	17(16)	28(27)	6(8)	14(15)	75	75

()は平成28年度同月、累計では同月までの発生件数

事故報告書(重篤事故、1ヶ月～6ヶ月未満の入院及び後遺障害の事故)は、その有無にかかわらず毎月8日までに必ずご提出願います。

また、重篤事故と推定される事故が発生した場合は、事故発生後概ね10日以内に「重大事故報告書(第1報)」によりご提出願います。

編集後記

紫陽花の美しい、梅雨の季節となりました。6月は総会の時期にも当たります。全シ協では毎年総会に合わせ、無事故で安全に関する各種取り組みを積極的に行っているセンターの表彰をしています。今年度は優秀賞4センター、優良賞17センターが受賞することとなりました。また、今年度から都道府県連合の優秀賞が新設され、石川県連合が栄えある第1回の受賞となりました。受賞されたセンター、連合のみなさま、おめでとうございます。これも日頃からセンター、連合が中心となり、会員のみなさま一人ひとりが安全に対して、積極的に取り組んでいただいた賜物だと思います。受賞を励みにこれからも常に安全を意識し、無事故が継続することを願っています。(松山)

さて、今月は、熱中症について、特集しました。

一般的な事例として、作業に熱中するあまり、また、熱中症への認識不足などから熱中症の発症に気づくのが遅れ、症状が悪化してはじめて病院へ搬送される例も多いといわれています。会員の皆さまには、十分に注意していただき、会員同士お互いに注意を払い安全に就業してください。

また、生活習慣が乱れると、熱中症にかかりやすくなるようです。

生活習慣を整えることは、健康づくりの基本となり、安全就業のための基本にもなります。食事をきちんととること、夜更かしをせず睡眠を十分にとることなどがポイントになると思います。

他には、水分及び塩分をとるタイミングも大切だと思います。「のどが乾いたな」と感じたときでは遅く、乾きを感じるまえに補給することがポイントです。

梅雨時でも気持ちはできるだけ爽やかにゆとりを持って、毎日を快適に過ごしていただきたいと思っております。(中嶋)

事故防止、急ぐな、あせるな、気を抜くな

<頒布物のご案内> 新規会員さんへの研修に活用ください!

全シ協では、シルバー人材センター事業を円滑に運営・推進していただく一助として、手引書、冊子などの頒布物を発行しています。

事故に学ぶ交通安全のポイント「改訂版」

交通事故の死亡者は年々減少傾向にある中、65歳以上の高齢者が占める割合は年々高くなっています。シルバー人材センター会員の皆様においても就業途上において歩行中・自転車乗車中の事故が多く発生しています。このため、事故に注意していただき、安全な就業をしていただくため改訂版を発行しました。是非、会員の皆様に対する研修会・講習会等のテキストとして活用ください。



頒布価格 216 円 A4 判
(税込・送料実費)

【改訂の内容】

- 1 現行のB5版/16頁からA4版/20頁とし、見やすく、分かりやすく、内容の充実を図りました。
- 2 警察庁交通局の「平成27年中の交通事故の発生状況」から、特に、高齢者の事故が多い内容や原因について注意喚起を行う事項を追加しました。
- 3 シルバー人材センターで発生した「就業途上に起きた交通事故」の状況や事故件数及びこれに伴う再発防止のポイントを「イラスト、事例」により掲載しました。
また、ヒヤリ・ハットの事例についても、「イラスト、事例」により掲載しています。
- 4 自転車の危険運転について、道路交通法の改正が行われ、この改正内容等について、「イラスト」等により解説を行い、追加しました。

【お問い合わせ先 全シ協企画情報課 TEL 03-5665-8013】